

コクチバス

分類: スズキ目 サンフィッシュ科

学名: *Micropterus dolomieu* Lacepède, 1802

英名: Smallmouth bass

和名: コクチバス

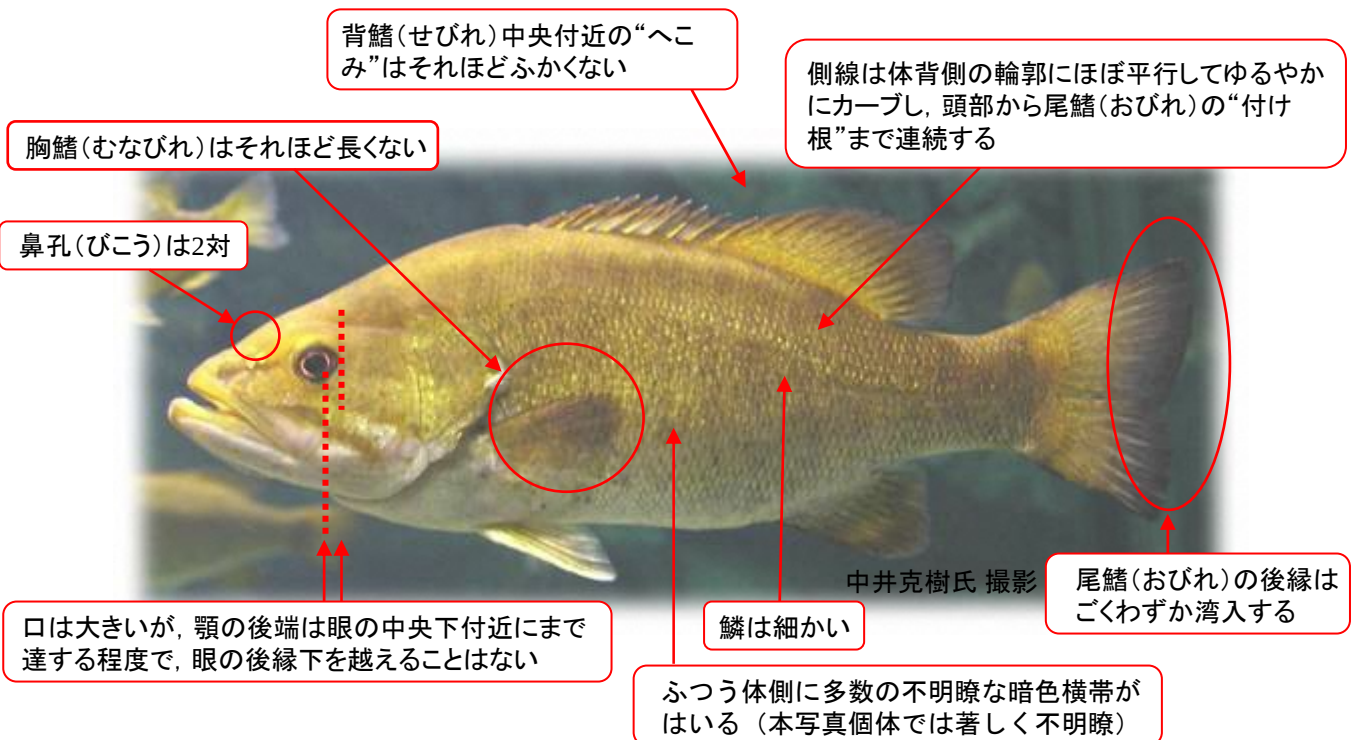
別名・流通名: スモールマウスバス, バス, ブラックバス, クロマス, コクチクロマス

原産地と分布: 原産地は北アメリカ(アメリカ合衆国東部)。現在では、移植により、日本を含む世界各地に生息する。

未判定外来生物: サンフィッシュ科全種(オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く), パーチ科の4属[*Gymnocephalus*, *Perca*, *Sander* (= *Stizostedion*), *Zingel*], ペルキクティス科の4属(*Percichthys*, *Gadopsis*, *Maccullochella*, *Macquaria*), モロネ科の2属(*Morone*, *Dicentrarchus*), ケツギョ科の2属(*Siniperca*, *Hypopterus*)

種類名証明書添付生物: アカメ科の1属(*Lates*), ケントロポムス科の1属(*Centropomus*)

形態的特徴: 体高が低い。口は大きく、顎の後端は眼の中央下付近にまで達するが、眼の後縁下を越えることはない。下顎は上顎よりも前につきだす。鼻孔は2対。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鰭(せびれ)中央付近の“へこみ”はそれほど深くない。胸鰭(むなびれ)はそれほど長くない。尾鰭の後縁はごくあさく湾入する。鱗は細かく、側線鱗数は68~81。体は茶褐色で、背部はやや暗色がかかり、腹部は白色にちかい。ふつう体側に多数の不明瞭な暗色横帯はいる。最大で全長69cmのものも報告されているが、ふつうは50cm程度まで。



特記事項: 日本各地の河川や湖沼などに広く定着し、それらの水域や管理釣り場などで釣り魚として利用されているが、外来生物法により生きたままの個体の運搬、保管、飼養が原則的に禁止されているため、釣獲時には適正に取り扱わなくてはならない。内水面漁業や水生生物調査、自然観察会などで捕獲されることもあるが、その際の取り扱いについても同様である。在来生態系保全や漁業資源保護のために、各地で防除事業が実施されており、自治体によっては再放流を禁じている。今後とも、これ以上の分布拡大の防止に努めるとともに、すでに定着している水域では必要に応じて被害の低減等の対策を講じることが望まれる。なお、防除の方針については、「オオクチバス等に係る防除の指針」を参照されたい。

オオクチバス

分類: スズキ目 サンフィッシュ科

学名: *Morone saxatilis* (Walbaum, 1792)

英名: Largemouth bass

和名: オオクチバス

別名・流通名: バス, ブラックバス, クロマス, オオクチクロマス, フロリダバスあるいはフロリダラージマウスバス(フロリダ産亜種), ノーザンラージマウスバス(フロリダ半島以外の地域原産の基亜種)

原産地と分布: 原産地は北アメリカ(メキシコ北東部～アメリカ合衆国東部)。現在では、移植により、日本を含む世界各地に分布する。

未判定外来生物: サンフィッシュ科全種(オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く), パーチ科の4属 [*Gymnocephalus*, *Perca*, *Sander* (= *Stizostedion*), *Zingel*], ペルキクティス科の4属 (*Percichthys*, *Gadopsis*, *Maccullochella*, *Macquaria*), モロネ科の2属 (*Morone*, *Dicentrarchus*), ケツギョ科の1属 (*Siniperca*)

種類名証明書添付生物: アカメ科の2属 (*Lates*, *Hypopterus*)、ケントロポムス科の1属 (*Centropomus*)

形態的特徴: 体高が低い。口が大きく、顎の後端は眼の後縁下よりも後方にまで達する(幼魚をのぞく)。下顎は上顎よりも前につきだす。鼻孔は2対。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鰭(せびれ)の中央付近にふかい“へこみ”があり、前後2部に分かれているように見える。胸鰭はそれほど長くない。尾鰭の後縁はごくあさく湾入する。鱗は細かく、側線鱗数は58～75。体は淡い灰褐色～銀白色で、背部は暗色がかかり、腹部は白色にちかい。体側に黒斑列があり(幼若魚で鮮明)、なかでもとくに鼻先～眼から体側中央をとおり尾鰭(おびれ)基部にまで達する1列が最も明瞭で縦帯状となる。最大で全長97cmとされるが、ふつうは50cm程度まで。

成 魚

口が大きく、顎の後端は眼よりも後ろにまで達する(幼魚をのぞく)

胸鰭(むなびれ)はそれほど長くない

※側線や鼻孔の状態についてはコクチバスの図を参照のこと

体側に黒斑列がある(幼若魚でとくに鮮明)

背鰭(せびれ)の中央付近にふかい欠刻があり前後2部に分かれているように見える

尾鰭(おびれ)の後縁はごくあさく湾入する

中井克樹氏 撮影

幼 魚

JWRC

特記事項: 日本各地の河川や湖沼、ため池などに広く定着し、それらの水域や管理釣り場などで釣り魚として利用されているが、外来生物法により生きたままの個体の運搬、保管、飼養が原則的に禁止されているため、釣獲時には適正に取り扱わなくてはならない。内水面漁業や水生生物調査、自然観察会などで捕獲されることもあるが、その際の取り扱いについても同様である。在来生態系保全や漁業資源保護のために、各地で防除事業が実施されており、自治体によっては条例で再放流を禁じている。今後とも、これ以上の分布拡大の防止に努めるとともに、すでに定着している水域では必要に応じて被害の低減等の対策を講じることが望まれる。なお、防除の方針については、「オオクチバス等に係る防除の指針」を参照されたい。